

「水曜サロン with 赤堀会長」第6期 第11回(通算86回)

AI時代の最新学習歴

1. 内容

○「教育学」から「学習学」へ

- ・教育学は教えることを職業とする1%の人々のための学問であるのに対し、学習学は全ての人(人口の100%)のための学問である。

○人間は学ぶ存在

- ・人間は生まれてから死ぬまで学び続ける存在であり、この定義はAIと共存する社会でますます重要になる。
- ・学びは学校で教わることだけではなく、ゲームや趣味も学びの一部である。学びは楽しいものであり、興味を持つことが重要。
- ・「最終学歴」には違和感がある。学び終わりがあってよいのか。最新学習歴の更新が重要であり、学び続けることで人生が豊かになる。

○リスクリング

- ・国がリスクリングを推進していることは評価するが、知識と技能に偏りがちである。幅広い学びが必要である。ヒューマンスキルが必ずしも重視されていない。
- ・「学び直し」ではなく「学び重ね」と表現したい。

○キャリアのとらえ方

- ・ドロッカーは、退職後の生活に向けた準備として、副業や趣味を並行して行うパラレルキャリアを提唱。
- ・慧眼であるが「パラレル」は交わらない。様々な活動が互いに影響し合い、相乗効果を生むことで、より豊かなキャリアを形成することを目指すクロスオーバーキャリアを自身は提案している。

○AI時代に求められる力

- ・教科学習や言語レベルの情報処理能力は必要ないわけではないが相対的な重要性は低下する。
- ・新しいものを生み出す力、感動して発見する力、人間関係を結び深める力、物事や体験に意味を見出す力、「やってみよう」と思える力など人間にしかできない力を磨く。

2. 所感

「教育学→学習学」「学び直し→学び重ね」「最終学歴→最新学習歴」「パラレルキャリア→クロスオーバーキャリア」など、これまで何気なく使われてきた言葉に対して、新たな言葉でその概念を発展させ、提唱されていることがとても印象的でした。それぞれについて、なぜ新たな概念が必要なのかのご説明も深く納得のいくものであり、現代社会における学びの意義というものを深く考えさせられました。

また、学びの多様性についても触れられ、学校教育で扱う内容だけでなく、趣味やボランティア活動も含め、本当に興味があるものを追求すべきである、というお考えを強調されました。大いに共感するところではありますが、そのような学習環境を特に子供たちにおいて実現するためには、学習指導要領の位置付けや内容を大きく変えなければなりません。「総合的な学習(探究)の時間」や自由進捗学習など、方向性としては同じ方向を向いてはいますが、不登校などのある意味学校離れが進む

中、もっと自由度の高いカリキュラムに早期に変えていくことが子供たちから求められているのではないかと感じました。

本日のご講演は、学びの本質とその楽しさを再認識させるものであり、教育の未来について深く考えさせられる内容でした。本間先生、貴重なお話をありがとうございました。